西鹿児島駅

東口駅前広場整備安全祈願祭

新時代へ向け、着工

工事の無事安全を

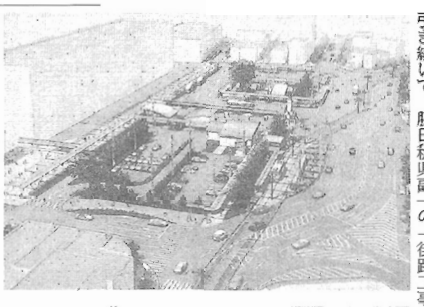
九州新幹線鹿児島ルートの16年春開業に合わせて整備を進める西鹿児島駅東口駅前広場整備（公共地下通路躯体工）の安全祈願祭が2日、同広場工事現場内で行われ、県・市の行政並びに議会関係者や施工業者、地元町内会長ら多数出席して、安全施工と工期内完成を祈願した。

祝詞奏上や清祓之儀に引き続いて、脇田稔県副知事や赤崎義則市長、施工者を代表して谷口明広丸福建設㈱社長と森山豊治㈱森山鳴組社長らが鍬入れと玉串を捧げて工事期間内の安全を祈願した。

同広場整備は、県発注の「街路工事（西鹿児島駅前広場・地下通路躯体）」を丸福建設・南生建設・森山土木JVが施工。主な工事概要は、延長160㍍、幅員5・9㍍～8・8㍍、高さ3・3㍍～3・8㍍。工法は開削工法（土留支保工）で構造形式は現場打ち鉄筋コンクリート函渠。工期は15年8月29日まで。

また、市発注の「西鹿児島駅東口駅前広場整備（公共地下通路躯体工）工事」は森山鳴組・新留土木・槇村建設JVが担当。主な工事概要は延長160㍍、幅員5・9㍍～24・7㍍、高さ3・8㍍～4・5㍍。工事内容は土工、本体工、仮設工、路面覆工及び雑工。工期は15年9月30日まで。

祈願祭終了後、赤崎市長は「新幹線開通に伴い新たな時代を迎える。素晴らしい地下通路や広場が無事故で施工させることを祈念したい」と語った。



西鹿児島駅東口広場の完成予想図（上）と、鍬入れを行う関係者＝鹿児島市の西駅東口広場工事現場内で

災害

予知・予測の向上を

土砂災害に関するシンポジウム

土木学会西部支部等

普遍的な土砂災害危険予測法への道筋を明らかにすることを目的とした「土砂災害に関するシンポジウム」（主催・㈳土木学会西部支部、九州大学西部地区自然災害資料センター、鹿児島大学工学部）が2日、鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で開かれ、土石流災害や地下水型崩壊の予知予測などについて活動の成果の発表があった。

学識経験者、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

主催者を代表して北村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

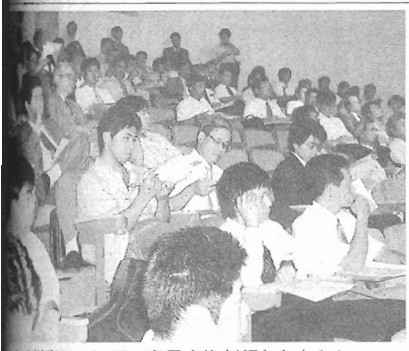
続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島大学鹿児島地区自然災害資料センター長の中村良介土木学会西部支部調査研究委員長が「自然災害の被害を最小限に抑えるために、予知・予測の精度向上が急務である。その中でも土砂災害については技術の進歩が不可欠。一層の研究に努めていきたい」と挨拶。



土砂災害についての意見交換が行われたシンポジウム＝鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で

予知予測」、鹿児島工業高等学校専門学校の疋田誠氏が「火山性土石流の検地システムについて」、鹿児島大学農学部の地頭薗隆氏が「南九州火山地域における地下水型崩壊の予測」等の調査研究を発表した。その中で、南九州火山地域の地下水崩壊について、針原土石流災害やシラス谷の土砂流出を例に取り上げ、河川の流量観測や水質調査を進めた結果、シラス斜面の崖錐部の崩壊は雨の強い時に崖錐の中の反応が早いことなどを解説した。

午後からは、㈳砂防・地すべり技術センターの安養寺信夫氏が「火山砂防とハザードマップの現状」と題して、砂防調査のこつ

枕崎建設業組合青年部ボランティア

港祭りの会場を設営

枕崎建設業組合青年部（長野卓哉部会長）は2日、同市恒例の港祭り「さつま黒潮・きばらん海」（3、4日開催）の設営ボランティアを行った。真夏の炎天下の下、汗まみれになりながら終日かけた作業で、参加者らは爽やかな汗を流した。

このボランティア活動は、会員ら約40人が参加。同日は参加者らを前に、長野部会長が「早朝からご苦労様です。連日の猛暑で作業も大変苦労すると思いますが、熱中症やけがには十分注意して作業を進めていただきたい」と挨拶した後、早速作業に取り掛かった。

作業は、2班に分かれて行われ、会員と協力業者らが持ち寄った重機によって、足場などの資材が次々と組まれた。汗まみれになりながら、終日かけた厳しい炎天下での作業に、参加者らは一応に爽やかな表情をしていた。

また、同組合は当日の練り連にも参加するほか、祭り終了後の5日には、会場の解体撤去作業もボランティアで行う。

参加業者は次の通り。

長野建設　今給黎建設　上木原建設　岩田組　森建設　有園建設　豊留建設　茅野産業　井上工業　よつもと工務店　大雄建設　上木原工業　下木原建設　福元建設　香建設　宿里建設　佳駿土建　鹿島組　日之出産業　真茅工業　ダイコー建設　鮫島興業　明興建設

作業を前に気合満々で写真に納まる参加者＝枕崎市の地場産業センター駐車場で

県建設業協同組合連合

日置支部青年部ゴルフコンペ

本村さんが見事優勝

県建設業協同組合連合会日置支部青年部（大迫尚嗣部会長）のゴルフコンペは2日、薩摩郡入来町の入来城山ゴルフ倶楽部で開かれ、19人が参加して親睦を図りながら熱戦を繰り広げた結果、本村裕一さん（㈱野元興業）がネット74・0で見事優勝、鈴木勇一さん（㈱マル勇建設）が同75・2で準優勝に輝いた。

優勝を深めたゴルフコンペ＝入来城山ゴルフ倶楽部で

欲の通り。

主な成績は次の通り。

優勝＝本村裕一▽準優勝＝鈴木勇一▽ベストグロス＝前木真一▽ベストスコア＝久保清

ベを通じて親睦を図り、より一層組合のきずなを深めていただきたい」と挨拶した後、スタートした。参加者らは猛暑の中でのプレーにも臆わらず、和気あいあいとした雰囲気の中で親睦を深めた。

ホールアウト後の表彰式では、見事優勝した本村さんが「まさか優勝できるとは思ってもいなかった。良いメンバーに恵まれたおかげです」と語った。

鹿児島市

「こどもまちづくり探検隊」

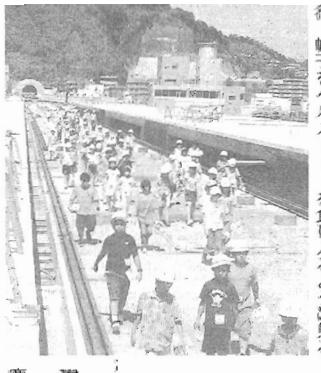
新幹線建設現場に歓声

鹿児島市は2日、こどもまちづくり塾の一環として「こどもまちづくり探検隊」を実施し、同市内の小・中学生75人が参加して、西鹿児島駅新幹線到着ホームや県長交流センター建設現場などを見学した。

同探検隊は、将来のまちづくりを担う子供たちに「鹿児島のまち」を実際に見てもらい、まちの様々な課題や魅力を見つけてもらおうと実施したもので、今回で2回目となる。

同市役所前のみなと大通り公園に集合した子供たちは、受け付け時に隊員の任命証とロゴマーク入りの帽子を受け取ってバスに乗車。城山公園展望所を経由して西鹿児島駅に到着した子供たちは、電線地中化の説明を受けた後、帽子をヘルメットにかぶり直して駅構内へ。係の案内で駅構内から新幹線到着ホーム建設現場に立ち入ると一様に歓声があがり、写真を撮る子やパネルを食い入るように見る子、係員に「新幹線はどこを走るのか」「ホームの長さは」と質問する子が見られた。

続いて一行は、星ケ峯南土地区画整理事業の現場や車中から南栄団地、鴨池ニュータウン、ウオーターフロントを眺め、県民交流センターでは大規模な施工現場を目の当たりにして圧倒する様子が見られた。



新幹線到着ホーム建設現場を見学する一行＝鹿児島市の西鹿児島駅構内で